

リレー・エッセイ

里山とわたし

桜と梅の区別もつかなかった男

高木 喜久雄 (松戸市 松戸里やま応援団)



早期退職し造園科へ “ちば里山センター理事” とは、自分でも信じられない。思い起こせば、カミさんに「桜と梅の区別もつかない」といつも馬鹿にされていた男である。電機メーカーのサラリーマンとして、全く縁のない人生を歩んできた。50歳の誕生日の目前にリストラで退職。職安に通うが、自分にできるような仕事なんか無い。「職業訓練校に行け!!」の指示で、何を学んだらいいのかわからない。リストラをしなくてはならない会社というところは、皆がヒラメになり下がる。定年まで、こんな連中と一緒に仕事をするのは嫌だと思って希望退職に手を挙げたので

あった。つまり、かなりの人間不信に落ち込んでいたといえるであろう。訓練校に行くとしても「人間を相手にした仕事はしたくない」と考え、“そうだ、木を相手にすればいいんだ” と選んだのが造園科であった。

木のため 人のため 庭師になり、さらに、「お庭の木々を相手にしているだけでいいのかわからないか?」と悩んで、森林ボランティアに首を突っ込んできた。それからひたすら突っ走ってやってきたが、「人間を相手にしたくない」と考えたことがいかに重大な間違いであったかを実感する日々でもあった。「世のため、木のため、人のため」これが今の私の日々のキャッチフレーズ。私が10年以上にわたってボランティアでお手伝いしてきた「森の聞き書き甲子園」で、参加した高校生たちが私のために考えてくれたものである。(ちば里山センター 理事)

里山の風にゆられて



ツルボ(蔓穂) きじかくし科ツルボ属

里山といえば秋の彼岸花がお似合いですが、その陰に隠れてひっそり咲いているのがツルボです。ツルボは花芽の出る前に 2,3 枚の葉が付き、種ができた後は消えてしましますが、3 月ごろ再びたくさん葉を茂らし球根を育てます。5 月ごろにはまた枯れて休眠状態で 8 月終りごろからまた花芽が出てきます。この休眠があるためか里山でも刈り払い機の犠牲にもならず生き残って、さりげなく咲いている花なのです。(写真・文:赤松義雄)

里山情報バンク新着情報

【場所等】 夷隅郡大多喜町小土呂(大多喜駅から車で10分)

① 駐車場4台~5台 ②トイレなし ③水道なし

【植生等】 16,000 m²の雑木林。南~西向き。傾斜は比較的緩やか。

【問合せ】 千葉県南部林業事務所 ☎04(7092)1318

《編集後記》

今回、新理事の高木さんにリレーエッセイをお願いし快く引き受けてくださってありがとうございました。一行ずつ読み進めていくうちに「それから? 続きは?」と、連載をお願いしたいと思ってしまったのは、私だけでしょうか?(M.K)

暑い夏の間行われていた里山ボランティア養成講座が無事終了しました。卒業した皆さんが汗だくでバスに乗り込んだ姿が目には焼き付いています。ふりかえりシートに「楽しい」を見つけた時には小躍りしました。里山の作業は“無理せず”、“楽しい”と思える気持ちを持ち続けて欲しいと願っています。(T.F)

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896

E-mail info@chiba-satoyama.net HP <http://www.chiba-satoyama.net>